



「ほすなある」10周年

法人化でさらに経営の充実

お目当ての山菜や新鮮野菜などを買い求める人でにぎわう店内

INTERVIEW インタビュー

みんなで育てる 産直ですね

清水トシさん(70歳・田代)



キクの花などを出荷して4年目。毎日が楽しく充実しています。勤めを辞め、目標を見失いそうなとき友達から勧められて組合員に。人生で最高のプレゼントをいただいた気分です。ほすなあるで知り合った仲間もいっぱい、お客さんから電話をもらって花談議はしょっちゅう。毎月の売上高も楽しみです。ほすなあるで顔を合わせる組合員はいきいき顔。従業員や私たちみんなで育てる産直だなあと感じています。

産直ハウス「ほすなある」は開業十年を迎え十月十五日、野菜などを出荷する組合員や来賓など約三十人が出席してくずまき交流館プラトールで記念祝賀会を行いました。葛巻ならではの農産物や特産品を提供し、ますます地域活性化に貢献しようという意気込みを新たにしました。

「ほすなある」は、平成十一年六月に町の西の玄関口・土谷川にオープン。町内から出荷者を募り個人五十人、五団体で出荷者組合を設立し、土谷川自治会に管理運営を委託してスタートしました。「安全・安心」な地元農産物やワインなどの特産品、漬物やそばなどの加工品などを販売。消費者の喜ぶ商品のアイデアや販売方法などにも工夫を重ね、「春の山菜祭り」「秋のきのこ祭り」「雪祭り」など四季のイベント開催などでも地域との交流を図りながら情報発信にも力を入れてきました。採れたて野菜やワインなどで売り上げ十億円、来店者は約九十万人にもなりました。

そして今年四月、組織をさらに強化してますます盛り上げようと、これまでの出荷者組合から「産直ハウスほすなある協同組合(理事長・波紫兼吉)」として法人化にこぎつけた新たなスタートを切りました。

地産地消を理念に「安全・安心」な商品の提供と販路拡大、組合員の親睦と安定経営がさらに充実することになりました。

産直の連携へ 連絡協議会を設立

もともと、もともと町産野菜や特産品を売り込んで来店者の増加をと町内の無人販売所を含む産直施設が連携する「くずまき産直連絡協議会(会長・橋場進ほすなある店長)」が九月二十八日設立されました。協議会は、統一したのぼり旗をつくり、イベントを開催するなど連携して葛巻の産直をアピールしていきます。



きのこ祭りのもちまき景品引き換えでにぎわう「ほすなある」前の広場



社会福祉法人誠心会
創立20周年記念式典

社会福祉法人
誠心会

町の福祉支え20周年

和野理事長(前列右から二人目)と感謝状を贈られた方々

【感謝状を贈られた方々】

敬称略

- 個人
鳥居徳身 澤村憲治 柴田幸榮
澤口孫吉 鷲塚勝治 日澤和男
- 団体
(社)葛巻町畜産開発公社 葛巻高原食品加工(株) (株)グリーンテジくずまき 茶屋場自治会 葛巻町婦人連絡協議会 葛巻ライオンズクラブ 葛巻町理容組合 葛巻神楽保存会 森のそば屋

記念式典で使命感新たに
町の高齢者福祉事業の中核を担う社会福祉法人誠心会(和野喜一理事長)は十月十四日、創立二十周年記念式典と祝賀会をふれあい宿舎グリーンテジで行いました。高齢化が急速に進み、目まぐるしく変わる国の福祉行政の中で、誠心会に寄せられる期待は大きく、参加者は高齢者福祉のさらなる向上を誓い合いました。式典には約百人が出席。和野理事長は「公設民営の長所を生かし、心をひとつに高齢者福祉の増進と質の高いサービスを提供します」とあいさつしました。続いて法人の運営に功績のあった人や、支援、協力した個人や団体に感謝状が贈られました。誠心会は、特別養護老人ホーム「高砂荘」「養護老人ホーム」「葛巻荘」の施設サービスのほかデイサービスなどの在宅サービス合わせて十一事業を展開。職員も八十人を超える町内屈指の事業所になり、雇用面でも大きな役割を果たしています。

20年間のあゆみ



平成元年4月24日、特別養護老人ホーム整備対策室の看板を掲げた当時の遠藤俊平理事長(左)と鈴木輝雄町長(お二人とも故人)



介護保険制度スタート



地域との交流も兼ねた夏まつりでにぎわう高砂荘